

私たちの知恵と経験を活かし

希望ある、やさしい長寿社会にするため

全国津々浦々で奮闘しましょう

私たちは、” ストップ軍拡 かがやけ人権 ” をスローガンに、” 新しい戦前 ” をゆるさず、まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくすために全国から集まりました。

日本は、いま世界一の長寿社会を実現し、9万人を超える方が100才を迎えています。みなさんの長寿を、心からの拍手で祝福しあおうではありませんか。

しかし、岸田政権は、社会保障をけずって大軍拡の財源に回すことをもくろみ、憲法の平和的生存権、基本的人権を守る国の責任も投げ捨てようとしています。

国民の人権保障を確立することこそ国が優先的にとりくむべきことです。

私たちは、昨年日本高齢者大会 in 京都で日本高齢者人権宣言を参加者の総意で確認しました。東京大会は、その後最初の大会となりました。人権宣言は、講座や分科会で幅広く論議され、運動へ活かし、つなげ、発展させるスタートに立ったことを確信します。

日本高齢者人権宣言は、日本の高齢期運動のたたかひの成果と最新の国際水準を反映させたもので、国連でも市民運動の中でつくったことが注目され、国連高齢者人権条約づくりにも貢献することが期待され、国際連帯の活動へと発展しています。

いま、政府は、誤った「高齢化危機論」や「社会の負担論」から抜け出せず、一部の高齢者排除論や差別などを助長しています。その結果、世界第二位の高齢者の貧困、ジェンダー不平等、女性の低年金などを解決できない人権後進国となっています。

今大会で、学び・交流したことを地域へ持ち帰り、大会の成果を活動に活かしましょう。

安心して子どもを産み育てられる社会、働く人の権利が守られる社会、ジェンダー平等の社会、戦争準備より平和な社会、老いることを心配させない社会、ひとりぼっちをつくらぬ社会など、だれもが住みよい社会に変えるため、私たちには、やらねばならないことが沢山あります。

高齢者は、過去と現在そして未来を結ぶ仲介者であり、その知恵と経験は、社会にとってかけがえのない宝です。

多くの人々と連帯し、希望と輝きに満ちた真の長寿社会を創造するため、全国津々浦々で奮闘することを誓い合ひましょう。

2023年11月13日

第36回日本高齢者大会 in 東京